

## 平成28年度第1回小牧市スポーツ推進審議会会議録

- 1 開催日時 平成28年8月25日(木)  
午後2時～午後3時55分
- 2 開催場所 小牧市役所本庁舎3階301会議室
- 3 出席者 会長 長尾 英俊 (公財)小牧市体育協会副会長  
委員 中川 宣芳 (公財)小牧市体育協会競技委員長  
委員 花井 忠征 中部大学教授  
委員 舟橋 孝司 中小体連小牧支所代表  
委員 舟橋 巧 小牧南スポーツクラブ役員  
委員 宮崎 加代 小牧市体操連盟理事  
委員 松浦 昌美 市民公募委員  
委員 田中 雅之 市民公募委員
- 4 説明のため出席した事務局員  
(教育委員会事務局)  
教育長 安藤 和憲 教育部長 大野 成尚  
教育部次長 鍛冶屋 勉 スポーツ推進課長 落合 健一  
スポーツ推進係長 長谷川 潤治  
スポーツ推進係主任 日比野 豊  
  
(小牧市体育協会)  
事務局長 井上 武 事業係長 青山 寿彦
- 5 傍聴者 1名
- 6 会議の内容  
(1) 会長及び職務代理者の選任  
(2) 議題  
議題第1号 平成27年度社会体育事業実施結果概要について  
議題第2号 平成28年度社会体育事業実施計画について  
(3) 意見交換  
市民(成人)の週1回以上のスポーツ(運動)実施率について  
(4) 報告・連絡事項  
報告第1号 平成27年度体育施設利用状況について  
報告第2号 平成27年度(公財)小牧市体育協会事業報告及び収支決算について  
報告第3号 平成28年度(公財)小牧市体育協会事業計画及び予算書について
- 7 会議の資料  
(1) 平成27年度社会体育事業実施結果概要

- (2) 平成28年度社会体育事業実施計画
- (3) 市民（成人）の週1回以上のスポーツ（運動）の実施率について [資料1]
- (4) 平成27年度体育施設利用状況 [資料2]
- (5) 平成27年度事業報告及び収支決算 公益財団法人小牧市体育協会 [資料3]
- (6) 平成28年度事業計画及び予算書 公益財団法人小牧市体育協会 [資料4]

## 8 議事内容

[事務局]（落合スポーツ推進課長）

ただいまから、平成28年度第1回小牧市スポーツ推進審議会を開催いたします。

それでは会議に先立ちまして、前任の委員の任期が7月31日をもって満了となりましたので、新たに審議会委員として皆様をお願いをさせていただくことになりました。なお、委員の任期については、平成30年7月31日までであります。本来ならば、委員に一人ずつ辞令を交付しますが、時間の都合上、委員の皆様のお手元に配布させていただいております。それでは、委員の皆様簡単に自己紹介をお願いします。長尾委員から左に順番をお願いします。

（委員が順番に自己紹介）

ありがとうございました。委員の皆様には今後ともよろしくお願いします。なお、本日は、杉田委員と黒田委員につきましては、都合により欠席の連絡を予めいただいております。続きまして、事務局の紹介をさせていただきます。

（事務局が順番に自己紹介）

本日の資料の確認をさせていただきます。机上に置きました委員名簿のほか、事前に郵送してございますが、本日の次第、「平成27年度社会体育事業実施結果概要」、「平成28年度社会体育事業実施計画」、「資料1 市民（成人）の週1回以上のスポーツ（運動）実施率について」、「資料2 平成27年度体育施設利用状況」、「資料3 平成27年度小牧市体育協会事業報告及び収支決算」、「資料4 平成28年度小牧市体育協会事業計画及び予算書」となっています。過不足がないかご確認をお願いします。

それでは、始めに教育長からあいさつを申し上げます。

[安藤教育長]

それではあらためまして、皆さんこんにちは。ここ数日、大変不安定な天候が続いております。委員の皆様にはこのような中、また大変お忙しい中、本審議会にご参加いただきまして大変ありがとうございます。8月の話題としましては、リオ五輪が史上最多となる41個のメダルを獲得して閉会を向かえたということかと思えます。いろいろな種目の中で深夜に見せていただきましたが、本当に感動する場面が随所にありました。これが深夜でなければ、子供たちもライブで見れたと思いますが、日本人にとって感動や勇気を与えてくれる大会であったと思います。その中でも、小牧市が期待を込めて送り出した寺本明日香選手を応援するため、パブリックビューイングを3回ほど実施いたしました。ここにお見えの舟橋巧委員が陣頭指揮を執って、パブリックビューイングを盛り上げていただ

きまして、ありがとうございました。大変多くの市民が参加をしていただきました。彼女が立派だったのは、団体4位、これは48年ぶりの快挙、個人総合も8位という記録で、これもこれは52年ぶりの快挙であるということで、メダルこそ取れなかったものの、日本体操女子にとって彼女の活躍は、本当に素晴らしいものがあったと思います。小牧市としても、彼女の健闘をたたえるようなお出迎えをしたいと思います。いずれにしても、これから4年後に東京オリンピックが開催されます。愛知県の小中学生の運動能力がかなり低いといわれていますが、寺本明日香選手に続くような、そういう五輪代表の選手を、この小牧からも出していくような、スポーツの推進・振興に繋がればと思っています。そういう意味では、ちょっと夢は大きいですが、皆さんの闊達なご意見を期待して、冒頭のあいさつに代えたいと思います。本日はよろしくお願いいたします。

[事務局] (落合スポーツ推進課長)

次第の2、会長及び職務代理者の選任についてを議題とします。小牧市スポーツ推進審議会条例第4条第1項の規定により、審議会に会長を置き、会長については委員の互選により定めることになっていますので、ご選出をお願いしたいと思います。

[舟橋巧委員]

長尾委員に、引き続き会長をお願いしたらどうかと思いますがいかがでしょうか。

[事務局] (落合スポーツ推進課長)

ただいま、舟橋巧委員から長尾委員をお願いしたらいかがかと、ご発言がありました。その他にご意見はありませんか。

(委員から異議なしの発言)

[事務局] (落合スポーツ推進課長)

それでは、長尾委員に会長を務めていただくことにご異議がないということで、よろしかったでしょうか。(異議なし)

それでは、長尾委員に会長をお願いしますので、席の移動をお願いします。

[事務局] (落合スポーツ推進課長)

それでは、長尾会長よりごあいさつをいただきます。

[長尾会長]

あらためまして、こんにちは。ご推薦をいただきました長尾と申します。今までこの場に座らせていただいて、皆様の支えの中で、この審議会における一番の課題や目標は、市民総スポーツということですが、それに向けて少しでも近づけるような、様々な取り組みを考えていきたいと思っています。ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

[事務局] (落合スポーツ推進課長)

ありがとうございました。次に職務代理者につきましては、規定により会長が指名となっておりますので、会長からご指名をいただきたいと思います。

[長尾会長]

今までと同様に、舟橋巧委員に指名させていただきます。

[事務局] (落合スポーツ推進課長)

会長から舟橋巧委員が職務代理者ということで、選任をしていただきました。

本日の会議につきましては、小牧市審議会等の会議の公開に関する指針に基づき、公開としています。本日は、傍聴人が1人ですので報告させていただきます。

また、本日委員8名が出席しており、会議が成立していることを報告します。

次に、議事録の署名については、宮崎委員にお願いしたいと思いますので、よろしくをお願いします。

それでは、次第の3、議事に移ります。議事の進行については、規定により会長が会務を総理するとなっていますので、長尾会長からよろしくお願いします。

[長尾会長]

それでは、議事を進めていきますので、ご協力のほどよろしくお願いします。

はじめに、議題第1号「平成27年度社会体育事業実施結果概要について」を議題とします。事務局から説明をお願いします。

[事務局] (長谷川スポーツ推進係長)

(議題第1号、資料に基づき概要を説明)

[長尾会長]

配布した資料の主だったところをご説明いただきました。

事前に資料を配布してあり、目を通していただいていると思いますので、全体をまとめて、どこからでも結構ですので、ご質問、ご意見などありましたらお聞きしますが、いかがでしょうか。

[事務局] (落合スポーツ推進課長)

今、事務局から実施事業の内容について、ご説明いたしましたが、次第の中で前年度と変わったところは、挙げさせていただいています。こども夢・チャレンジカップU-12では、参加チーム数を増やしたことや、特に説明はなかったわけですが、資料の中にはワールドカップの女子バレーボールを誘致して実施したこと、小牧市民駅伝競走大会において、参加資格の見直しを行って、一般高校女子の部を廃止するなどして、市内の方を中心に大会に参加していただくような要項とさせていただいたところがあります。こういったところを含めて、お気づきになれる点等があれば、ご意見をいただきたいと思います。

[長尾会長]

今、追加する形でご説明いただきましたが、ご意見があればいかがでしょうか。

せっかくの機会ですので、何か思いを語っていただきたいと思いますので、是非お願いします。よろしいですか。

議題第1号については、ご意見なしということでよろしいでしょうか。

(委員から異議なしの発言)

[長尾会長]

ありがとうございました。続きまして、議題2「平成28年度社会体育事業実施計画について」を議題とします。事務局から説明をお願いします。

[事務局] (長谷川スポーツ推進係長)

(議題第2号、資料に基づき概要を説明)

[長尾会長]

事務局から事業の要点について説明を加えていただきましたが、いかがでしょうか。

[事務局] (落合スポーツ推進課長)

内容については、説明のとおりであります。要点で挙げていますが、一つは学校運動部活動指導者派遣の増加であります。これは予算上の話にもなってきますが、学校部活動の指導者として、民間の指導者、地元の一般の方を指導者として市から派遣しているという実態がありまして、それぞれ中学校が主ですが、中学校の部活動が活発に行われている事は、喜ばしい事ではあります。いくらでも民間指導者を導入すれば良いかというところではなく、謝礼をお支払いする必要がありますので、予算面での対応が、なかなか辛くなっているところが現実であります。本年度については、年度当初の小中学校の校長会で、私の方から適切な運用をお願いしたいと依頼しました。回数や人数については、制限をさせていただいているところであり、学校の先生方の負担もかかってくる事は承知していますが、民間指導者の指導の時間数などについては、一定の制限を加えながら、実施をさせていただきたいとお願いしています。

それから、説明の中でもありましたが、平成30年度に全国高等学校総合体育大会のバスケットボール女子が、小牧市で予定されるところであります。本年度から、愛知県におきましては、準備委員会等を設置して会議等を行っている訳ですが、平成29年度からは、この大会を実施するに向けて、市を含めて実行委員会を立ち上げることが決まっています。ただし、人員等については、明らかになっていませんが、そうした前段階の情報交換といいますか、調整が今年度から既に始まっていますので、報告をさせていただきました。来年度以降、また新たな事業等が発生するかもしれませんが、そういったところにも向けて事業を進めさせていただいている事を紹介させていただきまして、ご意見をいただきたいと思います。

[長尾会長]

ありがとうございました。今、要点の説明を加えていただきましたけれど、運動部活動の指導者派遣の人数の増加という事については、27年度の事業実施結果概要の6ページに、27年度実績として99名という人数があがっておりますので、このあたりも参考にさせていただくと、今の話がより分かっていただき易くなるのかなと思いますので、参考にしてください。

[花井委員]

今の部活の派遣の件ですけれども、先程、謝金の件で予算対応が、というお話がありました。昨年度は延べ99名の派遣をされているということですが、今年度の要望としては、もっと高くなってきたということでしょうか。

[事務局] (落合スポーツ推進課長)

本年度は、現在88名の方が指導者として登録されています。昨年度の年度当初は、同等の人数であった訳ですが、後から追加されて膨らんでしまったところであ

ります。計画的な予算の執行ができなくなってくるということがありましたので、学校の先生方のご協力をいただいて、事業を進めて行こうということで、今年度は始めさせていただいております。

[花井委員]

学校の先生たちが、全国的にもこの問題に大変だということで、クローズアップされているところですけども、この部分に対して小牧市としては、「民間の指導者に依存していこう」という方向性があるのか、「学校の先生がんばれ」という方向性があるのかどちらでしょうか。

[安藤教育長]

一時ですけど、指導主事も立てまして、社会スポーツ担当の指導主事を教員から派遣して、5年間だったと思いますが社会体育に移行する、いわゆるクラブ化していこうということで、細かくなりますが仮登録・本登録というような、仮登録から本登録へ移行する段階で、なかなか部活が手放せない担当者もいて、本登録までいかなかったようです。本登録までいけば外部の指導者も入って、同じ部活担当者も、同じ部活のコーチということで、予算的にも配慮できたのですが、ジュニアクラブ化へ完全移行というところまでいけなかったという、一旦、部活動に戻る形になって、ただし、外部指導者の予算立てだけは、こうやって残そうということでしたが、学校の外部指導者の要望と、市の考えた予算立てが、上手くかみ合わず、思ったよりも膨らんでしまったということで、限られた財源の中で、やり繰りをスポーツ推進課で行ったということです。今年度の予算立てはできてしまっていたので、課長の方から校長会で、予算を考えて使ってくださいというお願いをせざるを得なかったということでもあります。

[花井委員]

私の世代の人間ですと、学校の先生がんばれというみたいな事があるのですね。そこで子どもたちと共にというのがあるのですから、今はずいぶん変わってきていて、そうとう教育以外の業務が増えてきて、なお且つ、部活をやっこない先生も増えてきて、部活を指導できない先生が実際に増えているんですね。そういう悩みをたくさん抱えている中で、やはり民間指導者で本当に指導できる方たちの導入というのは、これからの時代は積極的に考えなくてはいけないかなと思っているんですね。経緯は良く分かりますが、今後どんな方針で立てられていくのか、それにはやっぱりお金が発生しますが、先生方の負担などもあります。子どもたちにより良い教育の場を考えた時に、そのシステムをどう組んでいくかということ課題にさせていただけたらと思います。

[長尾会長]

中学校の部活動は地域連携型部活動という言い方で、今までのような部活動とは違って、ジュニアクラブを進めていった経緯の中で、外部の指導者も積極的に部活動に加わってくださいという形で、そのようなネーミングになっているということです。だから基本的には、外部指導者は予算の限りはあるけれども、積極的に進めていきたいというスタンスはあると思います。

[事務局] (落合スポーツ推進課長)

ご意見をいただきまして、今、会長からもお話がありましたが、基本的にはそのような方向でと考えています。予算立ての話につきましては、当方でいろいろ調整等させていただきながら、事業を円滑に進められるように調整をさせていただきたいと思います。

[安藤教育長]

これにつきましては、県のほうが、教員の多忙化解消のためのプロジェクトチームを作っておりますので、部活動も当然そこには含まれてくるということを考えた時に、県としての部活動に対する考え方が、これからの検討の結果を受けて、何らかの方針が示されてくるような空気があると感じ取っていますので、それを受けながら、他市と協調しながら、本市も進めていく必要が、これからの部活動については出てくるのかなと先々予想されます。

[花井委員]

ぜひ、県を待たずにお願ひできたらと思います。

[舟橋孝司委員]

平日の民間指導者の派遣は、なかなか難しいということで、民間指導者の方に来ていただくのは、どちらかという土日になっていく中で、文部科学省の動きも含めて、このままいくと回数が減るとか制限が掛かってくるのかなとも思いながら、若い世代が入ってきてはいるものの、バランス的にその種目をやってきていない指導者もいっぱいいて一生懸命がんばってはいるものの、中学生ぐらいになると専門性が求められることがあります。例えば、新任で入ってきて、まったく経験のないスポーツの顧問を持つと、中学生の方が上手だとか、ルールを良く知っているとかがあり、外部指導者の方が上手く繋いでいただけると、技術面の指導の中心は外部指導者をお願いをする形が、今どこの学校もそういう形である。それから、専門でやっていく中でも教員の方も、ある程度スポーツができて、その上をいかれるような経験をお持ちの民間指導者もいっぱいお見えですので、方向性としては、必要に応じて専門性を持った方に指導をしていただけると、充実した時間が過ごせるのかなと感じています。

[長尾会長]

中学校現場の声を含めてですね、お聞きしました。

[中川委員]

昨年度実績で、予算がパンクするようなくらいの申請がされてきたと、今年度予算については、実際に執行されてきていますので、どのくらいの人数の試算で予算が付いてきているのかが分からないのですけれど、もうすぐ29年度に向けた予算作成がされていく時期だと思いますが、ここ数年の外部指導者の派遣事業に関する実績から、より現実に即した形での予算要望がされていくべきだと思いますので、是非、もちろん外部指導者の資質の向上ということについては、当然必要な観点だと思うのですけれど、現実、日本の体育スポーツの世界というのは、学校体育の担う部分というのは非常に大きいと思うのですよ。そうすると、中学生、小学生とか

よりレベルを上げられるような環境を作るということが、すごく体育行政の上では重要な事だと思しますので、先ほどから花井委員や舟橋委員が言われたように、積極的に、前向きに今後の施策の見直しをしていただけると、非常にありがたいと思います。いろいろ予算全体のバランス的なところで、難しいところがあるのかもしれませんが、主管課として、ぜひお願いできたらと思います。

[長尾会長]

言ってみれば、強い要望ということでありますけれど、よろしく申し上げます。その他の質問はどうでしょうか。

[田中委員]

27年度の部活動の派遣事業が6ページに書いてありますが、小学校のジュニアクラブの外部コーチがたくさん入っていると思いますが、そういうのが書かれてないのはどうしてか。

[事務局] (長谷川スポーツ推進係長)

元々、ジュニアクラブは小学校と中学校にありましたが、中学校の件でいろいろな問題点がありましたので、中学校は市が認可して派遣する形を中心として行っています。小学校はジュニアクラブが行っていますので、ジュニアクラブに対しても市が民間指導者を派遣していますが、それは不足する部分を派遣する形ですので、6ページですけれど、米野小学校と陶小学校には派遣しています。

[田中委員]

小牧原小学校も、3人がジュニアクラブに派遣されていますが。

[事務局] (長谷川スポーツ推進係長)

ジュニアクラブですと、市からの派遣ではなくて、体育協会からの補助金という形で、指導者の謝礼が賄われているはずです。

[長尾会長]

田中委員がお尋ねされたいのは、ジュニアクラブの方へ外部指導者として、どれくらい的人数が、協力していただいているのか知りたいということですね。

[田中委員]

はい。

[長尾会長]

体育協会として、昨年度実績でもいいのですが、把握しているところはどうか。何か一覧表が出ていましたよね。

[事務局] (体育協会井上事務局長)

資料3の平成27年度体育協会の事業報告及び収支決算のところの、8ページですが、オの地域スポーツクラブ設置事業の、(ア)ジュニアクラブ設置・助成事業のところ、各小学校のジュニアクラブの一覧が記載してございます。ただし、今ご質問の指導者が何人というようなことは、資料を持ち合わせておりませんので、お答えはできないのですが、市の派遣事業とシステムが違っておまして、1クラブにつき、1教室につき、最大3名まで助成するというのが体育協会の助成事業の制度であります。市の指導者派遣につきましては、その人を派遣して謝金をお支払い



することだと思いますが、我々の助成事業につきましては、指導員が何人指導されていても、1クラブにつきまして3人を限度として助成をする形になっています。指導者の人数については、今資料は持ち合わせておりませんので、申し訳ありません。

[長尾会長]

今のお話を伺っていると、体育協会の資料の8ページにありますように、小学校のジュニアクラブ数が20ということで、最大が3名という数字を考えますと、60名という報告が挙がってくるかもしれないですけど、実質のところは、恐らくプラスアルファで進められているというふうに予想はするのですが、そういうような把握の仕方でもよろしいでしょうかね。

[田中委員]

はい。1つは、学校のジュニアクラブも部活動の派遣事業も、基本は学校の推薦の人で全部するというか、お任せな感じなのではないでしょうかということと、もう1つは、小学校や中学校のバスケの関係で、大会とかを良く見に行きますが、ぼくもクラブチームの代表をしていますので、先生も様々な先生がいますが、外部コーチも様々な人がいて、研修とかはちゃんとされているのかなとか、子供達に接するに当たって、まったく誉めないどころか、すごい暴言というか、それはコーチに限らず先生にも見受けられますが、外部コーチはしっかり研修を受けるべきではないかと。受けてみえるのかもしれませんが、そこはいつも気になる場所です。もう1つは、外部コーチの方が完全に主になって指導する場面と、先生との兼ね合いが難しい部分があって、先生とコーチとの話し合いになるとは思うのですけれど。一番は、派遣されるコーチの研修というか、今の子どもには、コーチとしてこういう風に接していくべきではないかというような勉強会というか、小牧市の基本方針みたいなのがあると、例えば、先生も外部コーチを見て何か言えるのかなとか、先生も外部コーチの言動を見て、自分の言動に注意しようと思えるのかとか考えてまして、どうでしょうか。

[長尾会長]

とりわけ、田中委員は最前線で、指導者や子供たちを見てみえるので、余計に感じ取られるのかと思います。その点につきまして、事務局の方としては、よろしいでしょうか。

[事務局] (長谷川スポーツ推進係長)

公認スポーツ指導員養成講座ということで、先程ご説明いたしました、これは申込に対しての講座ですので、全ての方が必須で受講するという訳ではありませんが、指導の方法ですとか、座学を中心に行っています。

[事務局] (体育協会井上事務局長)

先程、小学生のジュニアクラブの話をしていただきましたが、ジュニア育成活動の指導者を対象に、体育協会として、27年度の実績でいきますと、ジュニア期におけるコミュニケーション能力の発達及び神経系トレーニングについて、指導員を対象に研修をさせていただきました。先程言われましたように、応募での講習で

すので、全員が受けていただいているとはいませんが、ジュニアクラブの指導員及びジュニア育成の指導員については、広報等でPRして52名の参加をいただいています。

[事務局] (落合スポーツ推進課長)

先程、民間指導者への研修というところで、実施しているという話はさせていただきましたが、実際に受講者の数としては、我々が期待するほどの受講が毎年ないというところが実態であります。それぞれ、学校のほうへ指導者として派遣されている方々については、その講習会を行う前に、ご案内させていただきまして、ぜひ受けてくださいという事はしていますが、やはり日程の調整等もありまして、なかなか全員が受講できる状況ではないということもあります。引き続き、皆様に受講していただくようにご案内は差し上げて、技術面は当然指導に当たられるレベルにあるというふうに思っておりますので、後は、その指導の内容ですね、そういったところもその養成講座において、勉強を行っていますので、そういったところで知識を得ていただけるようにしていければと考えています。

[花井委員]

今、ご意見はよく伺ったのですけれど、私も賛同ですね。日体協でもずっとスポーツ指導員のライセンス制ということで、これは大事な子どもの命を預かるとか、お客さんの命を預かるとか、そういうところも含んでやってきている訳ですが、その中で小牧市独自でも研修をやっていただいています。せめて、これから関わろうという人たちは、そういう研修は受けて、いわゆるバックボーンをちゃんと持って、子どもたちに向かっていただく、そういう姿勢を小牧市自体が持ったほうがよろしいのではないのでしょうか。任意で日程が合わないからといって、無資格みたいな形で、素晴らしい方はいるかもしれませんが、トラブルになった場合に、小牧市がどういう採用をしてみましたかという時に、何の背景もない状況では、やはりまずいと思います。これからのスポーツ指導者は、ライセンスを持っていればいいという訳ではないのですが、それだけのある程度の課程を学んだ中で、ぜひご協力くださいというふうな、こちら側のスタンスを示すべきであると思っておりますが、どうでしょうか。

[田中委員]

やっぱり、しっかり研修を、義務ではないですが、先生や外部コーチが、昔自分がされてきた体罰を受けたり、厳しく言われたり、先生は教育を受けているのではないですが、外部コーチはそれをそのまま、子どもにという方が多いかなと。どちらかと言えば、現場で見た感じだとそういう方が7割、8割いるかなと思うので、そうすると、子どもがその競技自体をやりたくなくなったりとか、子どもはそれでも試合に出してもらえなくなるとか、様々なことがあって耐えるというか、小牧市として派遣される人は、こういうのは話題にしてくださいとか、はっきり示したり、何らかの義務のようにしっかり研修を受けていただいた方が良いのではないかと思う。1つは、子どもに対する接し方の部分ですね。技術の部分、もちろんやってきた人なので問題ないと思う。もう1つは、外部コーチと学校・先生とのところが、

たぶん外部コーチも悩んでいる人もいますし、先生も難しいところだと思いますので、この2点はすごく大事ではないかなと思いますので、提案としてですけども、検討していただければと思います。

[事務局] (落合スポーツ推進課長)

ありがとうございます。この指導者養成講座につきましては、本年度も予定がされています。その実施に向けて、そういった、今いただきましたご意見等を含めて、受講していただけるような工夫をしていきたいと思っていますので、よろしくお願いします。

[長尾会長]

なかなか、言葉は良くないかもしれませんが、根深い問題もありまして、例えば、次回の校長会の折に提案していただければ、舟橋委員さんの方から声を出していただいて、指導者として顔を出していただいている方は、そうした講習会にもご参加くださいというようなお願いというか、雰囲気を作っていくという方法もあるかと思っておりますので、よろしくお願いします。

[中川委員]

平成30年度インターハイのバスケットボール女子の会場を受けたという形ですね。すでに、県の方では、実行委員会等の準備が始まっている事は承知しているのですが、高体連が主導で動いていくと思いますが、30年度の本番を迎えるに当たっては、前年あたりのところで、例えばリハーサル大会とか、会場の受け入れ態勢ですとか、様々な部分で市として負っていかなければならない部分が出てくるかと思っております。その辺りのタイムスケジュールとか計画部分については、まだ具体的には出てきてないというふうには捕らえていいですか。というのは、29年度、年度が替わってからでは、後手を踏む可能性が高い。下手をすると、小牧市に相当負担が掛かるような状況が出てくるかもしれない。実際に市内にある高校といたら限りがあります。30年度はあつと言う間に来てしまうので、その辺りを、バスケットボール協会とか県の高体連と、どうリンクしていくのかっていうところの見通しを持っていただこうが良く思う。

[事務局] (長谷川スポーツ推進係長)

まだ、具体的なプレ大会は決まっていますが、高体連の方と話しますと、当日の大会に向けて、事前にボランティアのオフィシャルの方の練習は必要だと言われますので、当該年度の春に向けて、何かしらのオフィシャルの練習になる大会を行いたいとは伺っていますが、小牧市でどういった大会を行うのかは、決まっていないところであります。

[中川委員]

過去に、中体連の全日中の大会を、パークアリーナ小牧で行った経験があるものですから、余計にそう感じるのですが、本当にもう、全国から来ていただくチームの方々が気持ち良く大会に臨む姿を見て、小牧の子どもたちが、バスケットってこんなに素晴らしいものなんだっていう風に思えるようにしていくためには、もう具体的なタイムスケジュールを組んで、動きが取れるようにしていく。高体連から降

りてきた事だけをやっておればいいのかというと、予想される部分については、もうやっていかないと、お金が掛かるとか言うことではなくて、掛けなくてもこういう事が想定できるという部分があると思うので、事前に経験がある所から資料をいただくとか、準備をしていった方が良いのではないかと思ったものですから、よろしくをお願いします。

[長尾会長]

そうですね、どうしても高体連というと、県職員ということもありまして、なかなか市としての直接的な対応というのは引いた部分が出るかもしれませんが、やはり直接かかわるのは小牧市だというスタンスは、再度認識していただけるといいのかなという事を思いました。

今の件は、これでよろしいでしょうか。

[花井委員]

別件で、スキーの振興にかかわっている者としては、体協の補助事業ですか、スキー教室ですが、この27年度は、多分、雪不足で中止になったと思われませんが、28年度に同じように2日のプランを組んでいただいて普及される事は非常にありがたいと思っています。この日程は、変わっているのですか。同じような日程ですか。昨年は、12月19日、20日ですかね。岐阜の朴の木で行われる教室が中止になったようですけど、今年は日程変更がされているのでしょうか。

[事務局] (体育協会青山事業係長)

今年は、第4土曜日、日曜日になりまして24日と25日を予定しています。

[花井委員]

小牧のスキー連盟の方は、非常に活発に活動していますけれど、クリスマス寒波も最近危ないですよ。ここ十数年、やれた時の方が少ないのではないのでしょうか。

朴の木自体も、降雪機も動かないような状況がある中で、1週間ずらしたからといって、ちょうど休みにはなりますが、本当に市民の方たちにとって良いのかなと。もっとダイナミックに日程を変えて、子どもたちも来れるような2月下旬、3月とか雪がきちっとあるような時期に変えていただいた方が、今回の事はですね、きちっとやれることに対して補助金を出すみたいな形に考えていただいたほうが良いのかなと思うのですが。

[事務局] (体育協会井上事務局長)

昨年度のスキー教室が中止になったのは、多分初めてじゃないかなと思うのですが、今まで同じような時期でやってまいりました。今、朴の木平に人工降雪機がないのではないかという話は、正直分らないのですが。

[花井委員]

レースバーンしか、確か入れてないはずですよ。

[事務局] (体育協会井上事務局長)

目の前に広いゲレンデがありますが、ないのですか。ちょっと承知してなくてですね。ご意見をいただきましたので、一度検討させていただきますが、今年度につきましては、今までどおりの予定で行います。

[花井委員]

せっかく申し込んだ方たちが、キャンセルになると残念ですが、自然相手のものですので、現実性のあるところでプランを組まれたほうが良いのかなと思いますので、意見として述べておきます。

[事務局] (体育協会井上事務局長)

一度検討させていただきます。

[長尾会長]

市民対象にしたこの時期の行事としては、全体の行事の日程調整の中で組み立てられているという部分が恐らくあるような気がしますが、その辺りとの兼ね合いの中で、今後に向けた検討材料とさせていただきますので、よろしくお願いします。

[長尾会長]

議事終了につき進行を事務局へ返す。

[事務局] (落合スポーツ推進課長)

ありがとうございました。議事については、以上で終了となりますが、次第の4に移ります。意見交換会ということで、委員の皆様から意見をいただきたいということで、市民の週1回以上のスポーツ(運動)実施率について、意見交換をさせていただければと思いますので、事務局から小牧市の現状について、簡単にご説明します。

[事務局] (長谷川スポーツ推進係長)

(意見交換会、資料1に基づき概要を説明)

[事務局] (落合スポーツ推進課長)

今、説明させていただきました、補足といいますか、現在スポーツに、運動を含めて取り組まれている方は、各種大会やイベントに、自主的に参加されていると考えています。自主的な活動も個々でやっておられる方もありますが、そうでない方、現役世代の方々とか、活動する仲間がなかなか見つからないですとか、我々としてどういったアプローチをしていけばいいのかと言ったようなところで皆様方からのご意見がいただければと思っています。委員の皆様方それぞれのお立場で活動しておられますので、そういった活動を通じてでも結構ですので、感じておられることがあれば、どういった方策を立てるといいですとか、こういったことが考えられるですとか、そういったところで、何か参考になるご意見等がいただければと感じています。それぞれの委員の方々から思っておられることがあれば、ご意見をいただきたいと思っています。例えば、舟橋巧委員ですと、地元でスポーツクラブにかかわっているところで、地域スポーツの普及ですとか、多くの方にニュースポーツ等を広めていただいているところもあるかと思いますが、そういった観点から何か、多くの方にスポーツに取り組んでいただける工夫があれば、教えていただければと思っています。

[舟橋巧委員]

スポーツ実施率が示されているという事ですが、私のほうでは、自分のスポーツクラブの実態は、そういった実施率としての数字は把握してはいません。市全体に

幅広くスポーツを広めようという意識はあるものの、数値化はしていません。こういった数値化をするというのは、非常に良い事と思うのですが、もう少し具体的というか、年齢別、あるいは種目別を出していただきますと、どこが弱いのか強いのかが分かりますし、焦点が掴めるのではないかと、もう少し、ここの年齢が薄いので、あるいは高齢化してきて、若い人のスポーツをする機会が少ないというのが見えてくるかもしれません。それによってどういう方向性、年齢の高い人はウォーキングが一番多いと思いますが、若い人が弱ければ、ウォーキングの時間があまり取れなくて難しいのであれば、こういった種目を、ニュースポーツとか生涯スポーツとか、作戦が違ってくると思いますので、その辺が分かると攻め易いかなと思うのですが。

[事務局] (落合スポーツ推進課長)

ありがとうございます。今、年齢別でとか、はっきりしてくると、ターゲットが絞り易いというようなところではありましたが、我々の小牧市スポーツ振興計画の中で、市民総スポーツということをおっしゃって、総合計画の中では先程申し上げました指標等を掲げてやっているところでもあります。指標につきましては、国と合わせるような、成人という幅広いターゲットということになっておりますので、現在、どこの年齢層が弱いのですとか、そういったところまでは把握するには至っていないのが現状であります。かといって、何も施策を打たないという訳にはいかないもので、できる限りデータについては、今後、精査できるところはしていきたいと思いますが、それぞれお地元でも何か若い方を取り入れる取り組みをされたとか、こういった事業をやると関心が高いとかあれば、ご意見としていただけたらと思います。ありがとうございます。

宮崎委員につきましては、体操連盟ということで活動いただいているという事があります。その中でも健康体操の関係で、幅広く各地域で活動してみえますが、お年寄りの方が多いと思っておりますが、何か参加者を増やすような努力というか、そういったところで何かお知恵があればと思いますが。

[宮崎委員]

高齢者の方は健康意識が高いので、あれなんですけど、平成26年度から立ち上げました親子体操で若い、若いって言ってもお母さんの年齢が40代の方が多いんですけど、すぐ座ってしまうので、すごく体力がないなっていうのは感じております。健康日本21の会議で、確か歩数を比べるデータがあったんですね。小牧市で40代の歩数が激減というか、すごく少ないというのがありましたね。その方たちをターゲットに、いかに運動していただくかっていうのを会議でやっているんですけど。あと、春日井市が、第1月曜日か忘れたんですけど、ラジオ体操の日を制定しましたよね。それで中日新聞に、ばんばんラジオ体操の講習をしましたよ、こういうものを制定しましたよ、私たちはこういう活動してますよっていう、そういう記事が載って、すごく意識が高くなって感じ取ったんです。日ごろやっていて感じている事は、高齢者の方は子どもに迷惑掛けないように、できるだけ自分が健康であるようにって事と、あと、お母さんに対しては、子育てをするのには体力がい

るっていう事ですね。誰かの面倒を見るという事は、介護もですけど、自分の体力がいるってことを常に感じ取っています。

[事務局] (落合スポーツ推進課長)

ありがとうございます。これまで体を動かしていない方々に、いかにPRしていくかというところだと思いますが、そういったPR方法でお気づきになる点があれば、我々の方にも情報をいただいて、協力してやっていければと思います。

あと、公募委員の松浦委員、田中委員ですが、それぞれ何か、こういう取り組みをするといういいというようなところがあれば。

[松浦委員]

正直に言わせていただいてもいいでしょうか。親子ふれあい体操を、長年、小牧市でやらせていただいています。私の場合は他の市町村でもやらせていただいています。先程、宮崎さんの方からお話がありましたが、私の勝手な意見ですけど、やっぱり体力的に言うと、他の市町村のママたちに比べると小牧のママは体力がないというのはあります。あと、体力もそうですけれど、一緒にやろうという意識も、他の市町村と比べると若干低いと思います。先程、春日井と犬山が指標を出していないと言うふうにおっしゃられていると思いますが、実は、犬山市が新しく体育館が7月にオープンし、そこで、記念事業の一環として、今度の28日に私たちがイベントをやらせていただくんですね。それで各小学校、幼稚園とかに市の方から募集をかけてもらったんですけども、配った次の日からばーっと来たいっていう声があり、100組募集だったんですけど、わずか1週間で70組近くが集まってしまって、8月1日の段階で広報に載るのでその段階で100組を超えてしまうので、どうしようかってふうになってしまったくらいで、基本、たぶんお年寄りの方とかは、ウォーキングを楽しまれる、この運動という中には、バレーとかバスケとかだけでなく、ウォーキングも含めての運動だと思うんですけど、お年寄りとかはウォーキングとかを楽しまれる方も多いと思うのですが、若いお子さんを持ったママたちは、やっぱり子どもを置いては出られない。どうしても子どもと一緒に遊んで、一緒になって何かをするって言うのでいけば、運動って言うよりどちらかと言うと遊びが中心になるのかなと思います。ですので、実際に犬山も100組募集だったんですけど、もう130って言うふうに、広報が8月1日時点で載ってことで、8月3日まで、もうぎりぎりまで待って、後は全部お断りっていう形にさせていただいているのですが、ちょっと安全面上どうしてもそれを超えることができないので、やっぱり若いママたちは、子どもと一緒に遊ぶっていうのを望んでいる。岩倉もそうですが、親子で遊びに来て、今度子どもが幼稚園に上がってしまうと、自分が動けなくなってしまうので、今度違うのを探したりとか、やっぱり私のほうにも、先生、このまま親だけをやってくれないかと、小牧市のママからもあります。また、逆でうちの子は運動が嫌いなので、このまま幼稚園に上がっても、楽しく遊べる何かを、教室を何かやってくれませんかかっていうご意見とかも、今までに沢山もらっているんで、バレーとかバスケとか一つの物っていうよりは、遊びを広げたような物を市の方で提示すると、もっと動きたい、基本的に若いママ、パ

パもそうですけれど、子どもたちは特に動きたいっていうのが本能としてあると思うので、そういうのをやるといいのかなって思います。それで、2年前に、スラックラインってご存知ですか。要は綱渡りなんですけど、一度ちょっと、子どもたちが見たことないだろうなって思って、小牧原小学校の放課後子ども教室の方に、ちょっと来てって言ってスラックラインを経験させたら、子どもたちがすごく楽しいって、もう一回やりたいって言ったので、今年もまた他の小学校からスラックラインを見たいって言うのがあったので、2校ほど、スラックラインの予定を立てて、子どもたちに見せようかなって思っているんですが、体幹を鍛えるには、すごくいい遊びになるので、そういう子どもたちが見たことないものを、市がこういう遊びもあるよって感じでやると、子どもたちからすると、やらされるっていう競技よりはどちらかという遊び、遊んで楽しい方が、食らい付いてくると思うし、それに対して、親も子どもの笑顔を見ていやな顔をする親はいないと思うので、何か遊びを広げた運動っていうのを提示されると、たぶん若い親たちも運動っていうものにもっと興味を持つのかなって思います。

[事務局] (落合スポーツ推進課長)

ありがとうございます。興味を持つものを取り入れるですとか、そういったものから発展して継続性のある運動に繋がっていけば、スポーツの実施率も上がってくるのかなと思いますので、今後、施策を考えていく上で参考にはさせていただこうとは思っています。

[田中委員]

こども夢・チャレンジカップとかじゃないですけど、何か小牧市としてスポーツのテーマを掲げて、毎回、広報などに健康のためにスポーツはとていいとか、こういうスポーツ、体操クラブやってますとかスポーツ特集を組んで、常に市民にアピールすると、少しは向上していくのではないかなと思いました。

[事務局] (落合スポーツ推進課長)

ありがとうございます。今ですと、冒頭にもありましたが、オリンピックの関係で寺本明日香選手の記事も、広報に取り入れさせていただいたりですとか、あと、体育協会から記事を提供していただいて、広報の奇数月に紹介をさせていただいているのですが、そういったのも含めて、広報の活用とか、ホームページももちろんですが、PRにも努めて行きたいと思います。

[舟橋巧委員]

関連して、地元で今年は区長もやっていて、その中で感じているのですが、区長の立場で、3あい事業ということで3世代交流の事業をやらないといけない訳ですが、うちはスポーツ関連をやっているものですから、そういった種目を3あい事業に取り入れて、地元の地区で計画してやっているので、先程、松浦委員も言われたように、こども会に親子で出られるような種目ですね、年寄りの方でもできるようなグラウンドゴルフとか、新しいニュースポーツでペタンクとかですね、やったことがないような物を紹介するとですね、子どもも親もできるスポーツを紹介すると、やってみて楽しかったということで、後から非常に良かったよと、



またやってくださいと毎回言われます。特に夏休みはですね、私もいろいろ企画しまして、先回もボーリング大会をやりましたけれど、4年生以上の高学年になりますけど、その親と一緒に和気あいあいと、私も初めてですけど、子ども専用なのでガーターレーンを上げて、普通ならガーターになるけど、ガーターレーンに跳ね返されて、今度は真ん中に行っちゃって、ストライクになっちゃうようなハプニングもあって、非常に盛り上がりましたけれども、たくさんの方が、50名ほど参加しました。いろいろと場を提供して、企画してやれば、皆さんも関心を持って参加もできる。それによって、参加した人が、喜びがあれば、また他の人に伝達するとか、1年で終わってしまうといけません、役員は変わってしまいますので、それを連続して行けば、逆に増えていくのではないかと考えています。それともう1つは、今日もやってきましたがラジオ体操、先程、春日井のことが出てきましたけど、学校も夏休みが終わりですので、ラジオ体操は始まっていると思うのですが、うちの地区でも朝からラジオ体操をやりましたけど、子どもだけじゃなくて大人も一緒に参加ということで、子どもが100人近く、大人は45人くらいということで、たくさんの方が参加していただきました。朝早くからみんなでやるということになると、やっぱり気持ちもいいし、今日、参加した方は明日も来ますよということで、喜んでいただいています。ただし、一つ感じたのは私から見て、小学生はラジオ体操があまりできないですね。学校ではストレッチですので、小学校、中学校でも、あまりラジオ体操をする時間が少ないと聞いていますけれど、事前に6年生の高学年の方に指導して前に立ってもらいましたが、前に立つと一般の人と反対の方向でやらないといけないのですが、そういった指導もして、指導者を作って今日やったのですから、例年より非常に盛り上がったというか、毎年出てきている民生委員の方も、今年すごいねと言われました。そういうことで機会を増やしていくとか、関心を持たせるということが一番大事なかなと実感持ちました。

[事務局] (落合スポーツ推進課長)

ありがとうございます。関心を持っていただくことが重要でありますし、一回の経験だけではなくて、継続していただくということが必要になってくると思いますので、その辺りの連携といいますか、橋渡しといいますか、そういったところが上手くいかないと、この実施率に結びついてこないのかなと思います。

恐れ入ります、舟橋孝司委員いかがでしょうか。

[舟橋孝司委員]

最初に、この命題となっている成人の週1回スポーツというのをやろうとしたら、やはり舟橋巧委員が言われたように、ターゲットをはっきりしておかないと、例えばスポーツ実施率が、平成24年から25年で6.6%も下がっているけれど、どこが、どうして下がったのかとか、年代ごとに数値の変化はあるのだけれど、どこに手を当てれば数字の上で減って行って、今度は、27年度は増えてきましたよね。どこが増えて、何が増えたのか良く分からないのと、何となく広く全般的に手を打っている。上手くいくと、上がって、そうじゃないと下がっている。スポーツ実施率のスポーツは何の事を言っているのか、ラジオ体操は入れていいのか、ウォーキ

ングはいいのか、ジョギングはいけないのか、良く分からなくて、何となく、もやもやとした感じがしますので、その辺も、今のお話しですと母親世代が下がっているのなら、今言われたような子どもとのタイアップのイベントをもっともっと打ってあげればいいし、3あい事業にもこんなことができますよって打ってあげればいいし、今の話の中でも、ある程度そういう年代だったら、そういう方法もあるかなっていうことは、皆さんアイデアを出していただけるかもしれません。その辺を、もう少しはっきりとしていただければと思います。

[事務局] (落合スポーツ推進課長)

ありがとうございます。花井委員いかがでしょうか。

[花井委員]

なかなか、大変なテーマですけど、やはりスポーツは動くとか、遊ぶとか、体を使うとか大事な事だと分かっていると思うのですが、分かっているけど健康志向とか、競技志向とか、レクリエーション志向がある人たちは、もう取り組んでいる。けれども、やりたくてもやれない人たちもいるんですよね。その世代の人たちが、たぶん50%強、60%ぐらいの人だと思うのですが、一方で高齢の人は、私たちの健康測定等をする時に、来られる方はみんな元気のいい方ですので、そのデータと言うのは、突然上がってくるというようなデータしかとれないということで、そういういわゆる、病院には入っていないのですが、在宅の人たちにもターゲットになっていると思うのですね。こういう人に幅広く運動させましょうという時間がどう工面できるかが大事なのですけれど、なかなか個人個人、大変ですので、やはりスポーツをやる、或いは運動をやる時には、価値がなくちゃいけないですね。価値は、健康とか理由を付けられればいいが、付加価値を付けてやらないといけない。この付加価値で良いかどうか分からないのですが、商品型のものを出して行けば増えます。どこの地域か忘れてしまいましたが、カロリーカウンタなどで、カウント数が増えると、それを金券代わりのポイントに替えて、地域のお店屋さんでそれを換えてくれるみたいなことを取り組んでいるところもありましたよね。あれも、企業とかと協定を組めば不可能ではないですよね。付加価値を付けないと、やれやれでは、たぶんやれない、やる時間がない、やる気がない人たちにとっては、非常にこの数字を変えにくい。ましてや、確か去年の小学校5年生の全国調査で男女とも全部最下位でしたよね。家族の中で、家庭の中で、運動とか体を動かすことに関しては、愛知県自体が強く関心がある地域でない。そこを改善するためには、家族ぐるみとか、それぞれの人たちが、動くことに価値を持たせないといけない、それに理屈をいろいろ言ったり、講習受けたりしてもやらないので、その場合には付加価値性はありかなと、もっともっとローコストで行くなら、例えば万歩計みたいなので、こんな歩数を集めたら市長賞が貰えるとか、広報に名前を載せるとか、それでどれだけの人たちが増えるかわかりませんが付加価値が必要かなと、財政に破綻をきたさないようなですね。そういうものをしていかないと、実際のスポーツ力、競技力、今のオリンピック選手でも300万でがんばっていたのが、もう1億の世界になっていますよね。だから、そういう付加価値があることによって、より発揮で

きるというのは一般の人でも同じだと思うんですね。そういう仕掛けをしていくのが一つと、松浦委員がおっしゃられた、まさにそのとおりだと思いますが、子育て支援にかかわっている人でも、子どもと共にやるという環境が大事ということですね。子どもと共にやるんですけれど、やった時に、その場所がコミュニティの場所であったりとか、そこに子ども遊びとか、親子遊びの場に、子育て支援のプランが加わってくるんですね。例えば私たちの健康問題にかかわるものであれば、保健師さんとか、いろんな人が一緒に週一回でも場面を持って、プランが上がってくる。そうするとかかわってくる、まさに子育て支援センターは、そういう場所ですけれども、それをもっと大々的に体を動かすプランを組み込めば、20代以降のお子さんを持たれた方から40代中盤くらいまでいらっしゃいますが、そういう方達が、土曜日や日曜日に1時間とか2時間を費やそうという気になるみたいな場面を作る、環境を作ってあげる。すごくおっしゃる事、そのとおりだと思います。

[事務局] (落合スポーツ推進課長)

ありがとうございます。中川委員、何かあればお願いします。

[中川委員]

環境はすごくいい所はあるんですけれど、四季の森とか、パークアリーナ小牧の全体の施設とか、そういった所を見ていると、自然発生的にランニングとか、ウォーキングとかをしている人をすごく見るのですが、その中に规则的に制約をかけている部分があるので、その辺りを一度見直していただくと、もっと増えるのではないかなと。運動しやすいルールを作っていただくと、四季の森は、良い季節にあそこを一周するだけでもだいぶ違うと思うんですね。それができるような、他課と連携があってもいいのかなと思います。

[事務局] (落合スポーツ推進課長)

ありがとうございます。

[長尾会長]

私は意見としてですが、先程言われた付加価値というのは大好きでして、別の立場でご褒美を付けたら、きっと上がるようになると思います。また、どこかで提案したいと思います。これに関しましては、やはり広報の力がすごいなと思い、例えば健康フェスティバルですよね。あれは、パークアリーナのフロアにもものすごくたくさんの方が、最高齢90いくつの方も含めてやりますが、すごい雰囲気です。ああいう事がなされていることが、具体的に15万市民の方がどの程度理解してみえるのかっていうのは広報の力が大きいです。ウォーキングでもそうですけれど、15万市民のうち、どれだけの人数がウォーキングをしているのか、恐らく歩いている人でも分からないですよ。仲間が5万いるのか10万いるのか、自分だけなのか分からないんですけれど、そういう知る力、知らせる力、広報の力を上手く使うと、案外その気になる人が出てくるのかなと思いますし、いろいろな広報の仕方がありますけれど、まず手っ取り早いところで、そういうものを市民の方に積極的に知らせるといところから入って、一步一步、今ご提案いただいたような事に具体的に踏み込んでいくというような、基礎的なものができてくると、まず

いいのかなと、常々思っております。

[事務局] (落合スポーツ推進課長)

ありがとうございました。今回、初めて委員の皆様方からの意見をいただくということで意見交換をさせていただきました。我々としても、今後スポーツ施策を進めていく上で、委員の皆様方のご意見を参考に計画を立てていければと思っておりますので、また今後ともよろしくお願ひしたいと思ひます。

事務局から報告連絡事項についてご説明します。

[事務局] (長谷川スポーツ推進係長)

(1) から (3) まで事前に資料を送付しています。内容も重複しますので説明は省略します。

[事務局] (落合スポーツ推進課長)

次第6のその他につきましては、特にありません。委員の皆様方から、ご質問等ございませんでしょうか。なければ、これで平成28年度第1回小牧市スポーツ推進審議会を終了とさせていただきます。長時間にわたりまして、どうもありがとうございました。